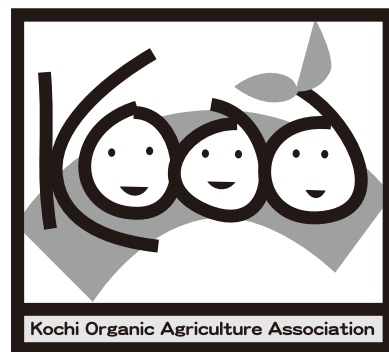


いろいろゆうぎ



2011年 夏・第12号

高知でも脱原発の風を！

東日本大震災の復興を一段とむずかしくしている原発事故。ひとたび事故が起これば、高知の森も田んぼも畑も川も海も人も生物もみな汚染されとりかえしがつきません。それぞれが自分にできる脱原発の道を探りましょう。高知での脱原発の動きを紹介します。

まずは、グリーン市民ネットワーク世話人で、土といのち副理事長の丸井さんから、震災から3ヶ月の、6月11日、高知市でのパレードのレポートです。

脱原発アクション6.11

朝は激しい雨。今日のパレードはどうなるだろう。人は集まってくれるかしらと内心不安でした。でも、集合時間の10時30分には小降りになり、パレード出発までには完全に雨があがりました。天気も私たちに味方してくれました！人もどんどん集まり、いろんなグループの「のぼり」も何本もたち、いろんな人たちが集まったんだと感激！こんなことって今までないことじゃない？と

ちょっと歴史的瞬間に立ち会っている感がありました。

いよいよ丸の内緑地からパレード出発。グリーン市民ネットワークで今回初お目見えの会員手作りの横断幕と素敵なパッチワークののぼりが先頭と後尾に。皆思い思いのプラカードをかかれています。今日は雨模様の予想だったせいかわちよつと子ども達の姿が少なかったかな。

大手筋から帯屋町商店街、はりまや橋、電車通り、四電前、県庁前と、「原発いらない」、「伊方を止めよう」、「高知は自然が一杯」、「自然エネルギーにシフトしよう」、「福島を守ろう」、「子ども達を守ろう」、「一緒に守ろう」などなど、皆でシュプレヒコールをあげながら、パレードしました。その数二百人〜二百五十人。雨がやんで、それから途中で駆けつけて加わった方も多くいました。

パレード後のグリーントークでは、東京から避難して来た方や、高レベル核廃棄物持ち込みを退けた元東洋町町長

さん、20ミリシーベルトの基準撤廃を求める小児科のお医者さん、脱原発議員連盟の県議さんなど次々と思いを述べていただきました。当初の予定の芝生でお昼を食べながらのグリーントークは残念ながらできず、短い時間でしたが、皆さん立ったままでも熱心に聞いてくださいました。

みなさん！おつかれさまでした！また、パレードしましょう。原発止めるまで！
(丸井美恵子)



特 別 決 議

原発に頼らない安心して暮らせる社会にしよう

生活協同組合 コープ自然派こうち

私たちコープ自然派こうちは「いのち・くらし・自然」をまもり、だれもが心豊かに暮らせるような社会を目指して活動してきました。原子力エネルギーについても、かねてよりその危険性を訴え、原発に依存するのではなく、自然エネルギーへの転換を目指して情報発信や署名活動をおこなってきました。ところが3月11日、東日本大震災と津波によって東京電力福島第

一原子力発電所で重大な原発事故が発生、危惧していたことが現実のものとなってしまいました。未だに終息のめどは立たず、予断を許さない状況です。

今回の事故で原発は一步誤れば収拾困難となり、被害は甚大、放射能汚染を未来の人たちに押しつける結果になり、こんなことが許されるはずがありません。私たちはこれまでの大量生産・大量消費型の原発を生みだすような生活、社会を見直し、省電力、省エネルギーで、より自然と共生する暮らしをしていきます。そして代替エネルギーを追求し、原発に頼らない社会をめざして各方面に働きかけていくことを決議いたします。

2011 年 6 月 23 日

生活協同組合コープ自然派こうちの取り組み

コープ自然派こうちは6月23日に開催された第16回総代会で「原発に頼らない安心して暮らせる社会にしよう」という特別決議が採択されました。コープ自然派事業連合は原発事故による放射能汚染に関する基本見解を5月23日に組合員に知らせ、自主検査を久留米市のビジョンバイオ株式会社依頼しています。放射性ヨウ素と放射性セシウムを利用頻度の高い商品および検査を要すると判

断される商品から随時実施し、4月から6月17日現在で34品目検査し、いずれからも不検出ということで開示されています。コープ自然派の水産物の被災生産者の中には脱原発を表明してきた生産者もあり、復興したときには取引を再開します。当然放射性物質の測定を行い、汚染がない事を表示しながら復興のあとおしをしつかりおこなうという指針が発表されました。

グリーン市民ネットワーク高知 設立趣意書

今回の大規模な原発震災は世界中に大きな衝撃を与え、世界の国々は自国の原子力政策を大きく方向転換し始めました。

そんな中、被災地である日本の原発がまだまだ変わらず稼働し続けることに、私たちは大きな恐れと疑問を持っています。今回の福島原発の深刻な事故は、事故をおこした原発が、どれほど広範囲にわたる放射能汚染をもたらし、どれほど多数の被曝者を生みだすかを、目の当たりにさせ、原子力を発電に用いることの誤りを思い知らせるものとなりました。さらに原発は、核のゴミ(死の灰)を常に生みだし、子々孫々まで危険を押しつけることになります。今、伊方原発を止めても、ピーク時に一時的な電力消費を抑制する対策を取り、通常時に過剰な電力消費の節電を行うだけで、火力・水力の余剰電容量で四国の電力をまかなうことができます。また日本列島は自然に恵まれ、太陽光・熱、風力、地熱、小水力、バイオマスなど自然エネルギーが活用を待っています。また分散型エネルギーを広めていける燃料電池もすでに実用化しています。これまでの原子力に頼る政策を変えることにより、短期的には化石燃料に依存せざるを得ないにしても、将来的にはこれらの自然エネルギーへとシフトすることは十分に可能です。今後暮らしを見直し、省エネを促進し、無駄な電気を節約すれば、日本中で必要とする電力を自然エネルギーな

「グリーン市民ネットワーク高知」発足

入会につきましては、HPの入力フォームに必要情報を入力または、入会申し込み書をお送りいただいただき、下記口座へ一口(500円)以上の入金をお願いします。

○郵便振込 16410-8031391

○ゆうちょ銀行 648-0803139

<http://www.green-citizens.net/>

どによる発電で十分に賄うことができます。

そこで、今回私たちは、既に高知県内で活動してきた個人・団体・グループの力と新たな人々の力を結集させ、危険な核由来のエネルギー(原子力)に頼らない自然エネルギーを主体とした社会を実現するべく、グリーン市民ネットワーク高知を設立することとしました。多くのの方々の賛同と参加を期待します。

2011 年 4 月 23 日

グリーン市民ネットワーク高知 発起人(あいうえお順): 井上正雄、上野伊佐子、植村和暢、植村厚子、大利賢一郎、岡田充弘、岸本ともこ、北村彰子、木田正博、小松しづき、外京ゆり、下司孝之、五島保子、坂本恭子、田辺浩三、谷川徹、野村恵、原崎道彦、平林稔、前田侑里、松本和子、丸井一郎、丸井美恵子、溝渕卓生、宮崎朝子、矢田修、横田日出子(以上27名)

事務局:〒780-8072 高知市曙町 1-39-12

TEL 088-844-2101

有機の里づくりをめざす土佐山

旧土佐山村は平成17年に高知市と合併しました。高知市を流れる鏡川源流域の中山間地域なのですが、かつて4千人弱を超えた地区人数は平成22年には1083人に減少、また若者の減少と高齢化の進展も非常に深刻な問題となっています。



(鏡川源流の土佐山地域)

高知市の水源地である土佐山地域は、鏡川を通じて高知市全体の森・里・まち・海といった環境を守る重要な地域であり、このまま人口減少が進んで集落が消滅し、地域の森林や田畑の荒廃が急速に進むことになれば、森林の保水力低下による災害の発生、平常時の水量低下、栄養分の偏在などが進むことが予想されます。その結果、市民の飲料水や河川流

域の土壌、浦戸湾や土佐湾の水産資源など、

市民生活や自然環境、生態系、農業・漁業などの産業に重大な影響を及ぼすおそれがあります。このため、土佐山地域の人々の暮らしが持続し、水源地や河川上流域の森林・自然環境が適切に守られていくことがとても重要です。そんな中で、土佐山地域存続の必要性和その対策を、地域住民・市民・行政当局など関係者間で共有し、速やかに実施していく必要があるということ、高知市によつて「土佐山百年構想」が企画されました。

その柱の一つにあるのが、土佐山／まるごと有機プロジェクトです。土佐山地域で早くから取り組まれてきた有機栽培による農産物の生産を、山間地域全域への展開も視野に入れ、生産・加工・販売への取り組みを一体的かつ拡大基調で進めていくというものです。加えて、健康や清流鏡川源流域の環境保全も含む総合的な生活向上をめざす取り組みを拡充するとともに、特に有機生産物を活用

した加工品の生産に力を入れ、「有機の里土佐山」を旗印とした地域発展モデル確立を地域住民とともに目指しています。あわせて「地域をまるごと販売」することにより全国にも注目される高知市土佐山地域を目標として取り組まれるのがこのプロジェクトです。

土佐山では既に有機JAS認証を取得した生姜を使った加工品である、鏡川ジンジャエールを製造販売しており好評を博しています。が、今後は新たな有機加工品作りを通して地域の活性化を目指しています。



(量販店等で販売されている鏡川ジンジャエール)

また、電通クリエイティブ・ディレクター、アウトドアブランド・パタゴニア日本支社長などとして活躍し、現在はオーガニックの普及などに尽力されている

ジョン・ムーア氏とともに、有機無農薬農業、鏡川源流域の豊かな自然と生態系、希少動植物の宝庫といった土佐山地域の強みを活かし、改修後の寒蘭センター施設等を活用して「土佐山・生物多様性アカデミー」を開設し、スクール事業を展開するというプロジェクトも掲げられており、土佐山全体をフィールドとして、自然と調和した持続可能なライフスタイルにふれながら、就農や地域の活性化に資する新たなビジネスの起業などを行うことを通じて、受講生たちの定住を促進することを目指しています。

官民一体となつて有機の里づくりに取り組む土佐山地域の今後の動向と発展は、高知市の未来にも大きく影響を与えうるものと思われま

す。高有研の事務局もこの土佐山にあり、健やかないのちを育む有機の里から有機農業の普及を目指して、会員のみなさまとともに歩んでいく所存です。今後ともどうぞよろしく願ひします。

今日は梅雨の合間の時間を
利用して、国のふるさと雇用
制度で採用され（財）夢産地
とさやま開発公社で農業分野
で奮闘している3人の若者を
紹介しようと開発公社が生姜
を栽培する有機圃場を訪ねま
した。



左から、山本さん、和田さん、鈴木さん、

今回紹介する3人は今年1
月に採用され5ヶ月くらい
経ったとの事です。

まず最初に紹介するのは鈴
木弘毅さん38歳、出身は福岡
で長く東京でとび職をされて

いたそうで、昨年奥さんの地
元高知に来て県の農業関係の
調査で土佐山を担当したのが
縁で農業に興味もあつたこと
から応募されたそうです。

次に2人目は山本真也さん
41歳。解体の会社や日本セメ
ントなどに勤めていてリスト
ラで失職中に話を聞き応募採
用、彼は生まれも育ちも土佐
山で開発公社も過去にアルバ
イトの経験もありあまり迷う
ことなくこの仕事に就いたと
のこと。

3人目はこの中の最年少25
歳の和田光由さん、彼も生ま
れも育ちも土佐山で、高校卒
業後家が農家であることから
両親の手伝いをしていたよう
ですが、近所の人の勧めで応
募、両親もまだ若いし、将来
のことを考えると公社はいろ
いろの作物を栽培していて、
有機の勉強もできることから
この職に就いたようです。

さて、こうした3人に将来
に対する夢や希望を聞いてみ

ると、鈴木さんは、時期はい
つになるかわからないが、い
つか奥さんと2人で好きな農
業で独立したいと即座の返
事、そのためにも今は与えら
れた仕事を一生懸命行いより
多くのものを吸収したいと大
変意欲的で将来が楽しみだと
感じました。

次に山本さんは、今特にこ
れと言つてはないが、子供さ
んが3人いて、今はこの子供
たちを育てることに専念し、
ゆとりができればその時に
ゆつくり考えたいとのことだ
した。

また1番若い和田さんは、
今は仕事を通じていろいろの
経験をつんで将来は家業の農
業を継ぎたいと話してくれま
した。

和田さんは現在独身だと言
うので結婚はと尋ねるとまだ
まだと言つたものの顔は笑つ
ており、その笑顔から察する
ところどうも既に彼女がいる
のではと感じたところです。



(土佐山高川からの眺め)

そして、この3人に公社で
の仕事について尋ねると、現
在公社では、数多くの作物を
栽培しておりとにかく忙し
い、次から次へと仕事が続つ
ておりなかなか休みがないの
が一番大変だと、また、雨の
日の農作業も大変だと話して
いましたが、厳しいと言いな
がらも3人は常に笑顔で対応
していただき大変好感が持て
ました。この開発公社、この
3人以外にも若い2人の研修
生もいてお互い力を合わせ仲
間意識を持って仕事している
ところから、もしかしたら彼
らの働きによつては公社が大
きく伸びる、そんな期待を感
じつつ取材を終えました。

「安心安全ただの虫。」「IPMからIBMへ。」

「農産物の安心安全を生きものの視点から見つめなおす！」というテーマでの講演会を行いました。講師は静岡県の桐谷圭治さんと愛媛県の長尾見二さん。



総合的有害生物管理」を経て、農地に住む生物と「共存」する農業Ⅱ IBM(総合的生物多様性管理)を提唱されてきました。

長尾さんは農業による健康被害を受け、将来的不安を感じ、今後一切の農薬化学肥料の使用を止められました。有機稲作30年のキャリアを持つ今治市の農家です。

参加者は一般の生産者や消費者の他に、高知大学農学部、高知の生徒さんや先生、それに行政サイドからも環境農業推進課や普及員さんも参加され、会場は百六十名ほどで一杯になりました。

高知県では、特にハウス園芸で「害虫」を「益虫」で抑えるIPMの考えとそ

の実践が盛んです。桐谷さんは「害虫」「益虫」だけでないそれ以外の沢山の「ただの虫」の存在の大切さを語られました。ただの虫が多様に存在することによって害虫も



被害を出すほどの密度にはなれない、そして害虫(もともとは人間がそう呼ぶだけ)そのものをただの虫にしていくような農業生態系をどう作っていくかが、これからの農業の大事なポイントだと。

その話を受ける形で有機稲作30年の長尾さんは次のように語られました。「私の稲作は生きものの達に手伝わってもらっている。だから田んぼの生きものの達が如何に生活しやすいように環境を整えてあげるかが、田んぼでの自分の仕事だ。」と。そして農業を撤く周囲の田んぼではウンカの被害が続発した時も、農業を撤かない自分の田んぼ

ではその被害が出なかったという、まさしくIBMそのままの経験も語ってくれました。

参加者にはかなり新鮮に感じられたのではないかと思います。

有機農業推進法や有機JAS法で市民権を得た有機農業ですが、もう一つ盛り上に欠け漠然とした行き詰まり感があるのもまた事実です。

そんな中、これからの有機農業の一つの方向性を示すものとして、有機農業を語る一つの切り口として、桐谷さんの理論や長尾さんの実践があるように思いました。



「ただの虫」を無視しない農業

桐谷 圭 著 築地書館

2004年3月発行 ISBN4-8067-1283-3.

残留農薬が問題視され、食の安全性を希求する声の高まりとともに減農薬や有機農業がようやく定着しつつある。

本書では、20世紀の害虫防除をふりかえり、減農薬・天敵・抵抗性品種などの手段を使って害虫を管理するだけではなく自然環境の保護・保全までを見据えた21世紀の農業のあり方・手法を解説する。

著書の紹介

余談
：有機塩素系農薬のBHC。この農薬は環境への悪影響が大きすぎるということで現在日本では使用禁止、販売禁止になっていますが、高知県が全国に先駆けて一九七四年「中止宣言」したことをご存知でしょうか。高知での桐谷さんの功績の一つです。

第1章 農業の将来

(世界の人口、農業、環境；アジアの農業環境と稲作 ほか)

第2章 化学的防除の功罪

(化学農薬依存への反省；BHCの環境汚染 ほか)

第3章 有機農業の明暗

(自然の加害者から保全者へ；有機農業とは ほか)

第4章 施設栽培の生態学

(農業生態系と害虫相；世界3位の施設園芸国 ほか)

第4章 総合的生物多様性管理 (IBM)

(生き物を育てる機能；IBMの理論 ほか)



余談の余談

：このことで在籍していた農水省からは睨まれ、高知在住が16年にもなったとのこと。それも高知県にとっては恵まれたことでした。
(松林直行)

◆◆イベント◆おしらせ◆◆

「新しい時代の農業講習」

◆第1回 6月27日(月)

「誰も知らないタネの話」

～F1種の 真実～

野口種苗研究所 代表 野口 勲

◆第2回 7月19日(火)13時～

「有機農業を軸とした事業戦略」

(株)風人ファーム代表取締役

澤田 隆文

◆第3回 8月5日(金)13時～

「未来社会の安全保障」

～生命をつなぐ有機農業～

有機の学校「土佐自然塾」塾長

山下一穂

◆第4回 8月19日(金)13時～

「地域ブランドとは何か？」

(株)ナチュラルアート代表取締役

鈴木 誠

高知大学教授(農学部) 副学長

受田 浩之

◆会場 土佐山田中央公民館

◆対象 現在求職及び、就職されている方

◆お申し込み・お問い合わせは

香美市地域雇用創造協議会まで

香美市土佐山田町東本町1-3-12

TEL: 0887-53-2123

FAX: 0887-52-9123

こどもの身体と心の専門家

田村こどもクリニック

院長 田村保憲

母乳外来(助産師)もあります

高知県南国市篠原1459-1

電話 088-863-0723

FAX 088-864-3745

よさこいふるさと市場

有機農産物フェア

10月下旬 12月上旬日曜日開催
出店者募集 もちつきもします
詳しくは次号でお知らせします
主催 高知県有機農業研究会
問い合わせ先 山本優作
090 (1008) 4717

有機農業講演会と

新規参入相談会

10月14日(金) 13時
場所、未定 詳しくは次号で
講師 木嶋利男(農学博士)
参加費 1000円
懇親会あり 別途6000円
主催 MOA自然農法文化事業部
問い合わせ先 山下紘宇
090 (4975) 9475

小出裕章氏講演会

「原発のウソ」 著者

9月4日(日) 時間未定
高松市 貸切バスで行きます
主催 コープ自然派四国4生協
問い合わせ先
コープ自然派こうち
088 (804) 6705

理事会報告

定例理事会 5月20日 2時
臨時理事会 6月18日 2時
定例理事会 7月5日 10時
場所 高知市土佐山菖蒲 和庵
(事務局)

主な決定事項

- *よさこいふるさと広場有機農産物フェアの反省と次回は秋に実施予定。
- *広報紙「いろいろゆうき」を年4回発行
- *高有研ホームページを9月に立ち上げる。
- *県下市町村行政を訪問し、有機農業への取り組みを聞き、研修会開催のよびかけをする。
- *定款の変更による登記の件

臨時総会 7月5日 2時3時
場所 高知市土佐山菖蒲 和庵
(事務局)

*県NPO課よりこのたびの定款変更は軽微なものにあらず、再度認証が必要であり、2011年度、2012年度の事業計画と予算案が必要とのことで再度2カ年分が提案され承認された。

編集後記

原発をやめて代替エネルギーにかえようというこのたびの運動の盛り上がりは、インターネットの果たしている役割が大きい。反原発、脱原発、卒原発、縮原発とにぎやかだ。世界の原発おつかれさまいままでもうありがとうという署名運動もある。生まれたときから便利快適な環境にそだった若い世代が今気がついて新しい時代をつくらうとしている。手法はいろいろ。とにかく原発なしで暮らそう。(東條)

特定非営利活動法人
高知県有機農業研究会 広報紙
いろいろゆうき 第12号
2011年7月8日発行

〒781-3214
高知市土佐山菖蒲651
090-1008-4717
事務局長 山本優作

当紙に関して、また、入会申込み、共に上記までお問い合わせください。

当会の事業は、会員の皆様にご協力頂いています会費により運営されています。入会をご希望の方、会費が未納となっている方、下記口座への納入をお願いいたします。

郵便振替 01640-6-56351

加入者 特定非営利活動法人
高知県有機農業研究会

個人	運営会員	5000円
年会費	賛助会員	3000円
	購読会員	1000円

団体	運営会員	10000円
年会費	賛助会員	5000円

天然酵母 & 国産小麦

さくらベーカリー

<http://www.sakurabakery.com>

土佐山田町百石町 1-7-26 Tel & Fax 0887-53-1433

Open 7:00 ~ 19:00 Close 金曜日・土曜日